

2024年度卒業生(16期生)

東京東信用金庫 一般事務 就職

「合格体験記」

私が就職活動に取り組み始めたのは、3年生の6月ごろでした。就職すること自体は中学生のころから決めていて、第1希望の就職先は1年生の終わりには決めていました。校内で1名のみだったので、校内選考で落ちないように内申点を上げることを最優先として高校生活を送りました。3年1学期の期末テストが終わってから、本格的に筆記の勉強、面接練習、履歴書を書きはじめました。筆記と面接は本を1冊ずつ買ってコツコツ練習しました。夏休みには週に1回以上学校に行き、面接練習や履歴書を見てもらったりしました。志望理由は何度も修正し、少しでもよいものが書けるようにとても時間をかけました。筆記の中の作文も、いろんなテーマを練習して、出来たら先生に見てもらいました。面接は様々な先生方に10回以上指導してもらいました。

就職は期末テストが終わってから、9月中旬までが特に頑張りどころだと思います。長いですが、地道に頑張れば後悔はしない結果になるのではないかと思います。個人的に頑張ったほうがいいと思うことは内申を上げること、遅刻・欠席をしないこと、そして面接練習です。特に遅刻・欠席は社会人になるとしないことが当たり前なので頑張ったほうがいいと思います。私が就職を目指す人にすすめたいことはアルバイトです。働くことへの練習としてとてもいいと思います。続けられれば、忍耐力がつくし、自分は将来どんな風に働きたいのかをイメージしやすくなると思います。無駄な体験というものはないと思うので、アルバイトだけでなく、部活動や委員会、資格や検定の勉強など、多くの経験をしてみるといいと思います。逆にもっとこうしておけばよかったと思うことは、文字に触れることです。本や新聞、マンガですら読まなかったのが、作文と国語全般はとても苦労しました。読み物を読む習慣をつけられればよかったと少し後悔しています。後悔が残らないような高校生活を送ってください。

東京電機大学 工学部電気電子工学科

一般選抜・前期3科目方式(数・物・英)

日本大学 理工学部 電気工学科

C方式(共テ利用) 数学2科目・物理

「本気になること」

私が受験勉強を始めたのは高校二年生の三月下旬でした。ここでは一年間を通して伝えたいことを四つ書こうと思います。特に一つ目と四つ目が強く伝わればいいと思います。

一つ目は、本気で何かに打ち込むことについてです。受験勉強を始めるまでは何気ない高校生活を楽しむだけで、本気で何かに打ち込んだことはありませんでした。一年間ほとんど勉強をして過ごしてきましたが、周りにも一緒に取り組む仲間がいてくれたおかげでずっと楽しめていました。本気で何かに打ち込んで、最後まで全力でやり切ってみてください。勉強以外のことでいいですよ。

二つ目は、進路を早く決めておくべきということです。私は高校二年生の三月に一般受験をすることを決めたので、人よりも始めるのが遅かったです。高校二年生の一学期までにはある程度進路を考えておくといいと思います。ほとんどの人はその後の夏休みの間、暇な時間が出てくるはずで、時間をただ溶かすのはもったいないと思うので、その時間に具体的な進路を考えておけば、遅くとも二学期から対策が始められます。一年半本気で進路活動をすれば基本何でもできるようになると思います。

三つ目は、自分を理解して工夫することです。私は外部で受けた模試の最初の英語の点数は4点でした。その上、記憶力も弱いので、工夫として夏休みの間は毎日同じ参考書を一冊読みきるようにしていました。

四つ目は、諦めないことです。今更やったところで遅い、と思っている時期が私にもありましたがとにかく量をこなすようにしました。もし間に合わないと思っている人がいるなら、自分に言い訳せず、残された時間全力でやってみてください。本当に全力を尽くせば、どんな結果であっても、やり切った時間に後悔はしないはずです。応援しています。

「合格体験記」

僕は一般受験を失敗し、本来行きたい大学に落ちてしまいました。この経験をしたことで良かった事と悪かった事がありましたので伝えます。ただ、勉強法などはインターネット等をみればたくさん出てくると思いますので他の事を4つ伝えようと思います。

良かった事1つ目は、英検を受験し合格したことです。大学には「英検利用」という入試形式があり、英語の試験が免除になったり、得点換算になります。英検利用は一般入試とプラスで受けられるので絶対に英検を取得するべきです。その為、英語が得意な人も苦手な人も、最低限準2級をとっておくと損はないです。推薦や指定校でも英検が必要な場合もあるので、大学を考えるなら全員とるべきだと思います。

2つ目は早めに模試を受けた事です。学校の模試だけではなく、外部の試験などに慣れてください。正直いうと葛飾総合の模試はとても簡単で評定もでやすいです。そのため外部の模試などを受けて記述の形式などに慣れてください。

3つ目は一般受験をした事です。受験に失敗してしまい、結果的に第一志望の大学とは別の大学に決めましたが、後悔はしていません。忍耐力が上がり人生においての糧になった気がします。しかし提出物やテストを頑張り、一つの選択肢として指定校推薦に出願できるようにしておいた方が良かったな、とは思います。

悪かった事1つ目はスマホを手放さなかったことです。スマホがあると勉強に集中が出来ないので一般を目指す人はどうにかスマホをなくしましょう。

受験勉強を始めるタイミングはできるだけ早い方がいいです。インターネットなどで参考書ルートなどを調べて基礎レベルを3年までにやっておくととても楽です。数学だったらⅢCを先取りしておきましょう。

「進学から就職」

私は、元々被服の専門学校に進学しようと考え高校へ入学しました。しかし、入学後は食物を選択し就職しました。周りの反対や自分の心変わり、色々なことを通り経験し自分の将来を決めました。就職することを決めたのは、二年生の後半と一般的に遅い時期でした。先生方のサポートや友達の手助けがあり、就職内定をもらうことができました。専門、大学、就職と自身の進路について悩んでいた時期が多く、決めかねていました。しかし、学校を調べる、就職について調べる等対策なども一切していませんでした。それでも内定まで決まったのは、日々の積み重ねがあったからだと思っています。目上の人への接し方、言葉遣い、日常で意識し、特別ではなく「あたりまえ」にすることが大切です。

就職試験は面接だけの会社もありますが、SPIや数学の試験がある会社と様々です。SPIとは、基礎学力や性格を測定する総合適正検査です。私は面接、SPI、グループディスカッションを行いました。SPI、グループディスカッションはあまり緊張せずに終わりましたが、面接ではとても緊張してしまい、考えていたことが全て真っ白になってしまい、気が付けば面接が終わっていました。ただ普段から言葉遣いや態度、接し方などを意識していたため、何とか乗り切ることが出来たように思います。周りの気づかいや支えは「あたりまえ」ではありません。しかし、自分の行動を改め「あたりまえ」にすることはいつでもできます。

私はこれから受験する人、就職する人、迷っている人、皆さんに「遅すぎることはない」と伝えたいです。今がいちばんです。勉強も遅すぎることはありません。今更とあきらめずに「今」だからできることがたくさんあります。

自分の気持ちを大切にしてください。

「受験は1人で挑むものだけれど、 決して1人ではない」

私が受験期間中に経験したことや感じたこと等を伝えていきたいと思います。

私が第一志望の大学を決めたのは3年生の6月頃でした。進学をする大学を決めた時期は、遅すぎたかもしれません。しかし、悩めるだけ悩み、自分が本当に進みたい大学を決めることが大切だと私は思います。第一志望を早い時期に決めることも大切ですが、まずはどの入試方法で受験するのかを決め、対策を進めていくと、第一志望が変わっても対応ができてくると思います。

受験の対策を始めたのは、3年生の夏休み中です。夏休みからは面接の練習を始めました。私は面接の練習は、何回も回数を重ねましたが、回数を重ねるか重ねないかは、自分次第だと思います。対策は、学部・学科のパンフレット等を読み込み、アドミッションポリシー・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーをしっかりと理解することが重要です。大学が求める人材に自分を近づけることが大切になってきます。小論文対策を始めたのは、1回目の受験が不合格と判明してからなので10月初めでした。小論文対策は、何回も添削をしていただき、書き直すことを行いました。対策を始めた時期が遅かったため、11月中旬の入試本番では少し不安が残る状態で挑みました。対策が遅かれ、自分に自信がつくほどに行うことができていたらと反省があります。

私は1度受験の結果に不合格という文字が出ました。最初は、不合格ということを飲み込むことができませんでした。ですが、時間は待ってくれません。気持ちを切り替えて次の段階に進むことが大切だと感じました。

最後になりますが、受験は1人で挑むものですが、1人ではありません。家族や友人、担任の先生などたくさんの人が関わります。たくさんの人に支えられています。1人で戦っているものだとはいえず、受験に挑んでほしいと思います。応援しています。

「入学後の自分のために」

私が第一志望校を決めたのは、1年生の3学期頃です。当初は、大学の看護学部への進学を考えていましたが、専門学校のオープンキャンパスにも参加していく中で、都立の看護専門学校に魅力を感じ始めました。公立ということで、学費が大幅に抑えられる上、高い国家試験合格率と、国公立の病院への就職者が多くいるという点に特に惹かれました。早期に目標が定まっていた事は、受験への意識も早めに高まり、良かったと感じています。

2年生からは、医療系の全国模試を受けに行き、自分の今の立ち位置を知ったり、苦手分野の解析を行い、基礎固めを徹底して行ったりしていました。また、学校ではなく、外部の模試を受けに行っていた事で、周囲の人の試験の合間時間の過ごし方や、参考書が使い古された様子を見て、自分が遅れをとっていることを目にして知ることができました。受けに行くたびに多角的な面で、学べることが多くあり、普段の受験勉強に良い刺激を与えてくれました。私は、公募推薦で合格することができましたが、推薦入試は3年間の積み重ねで、定期テストなど、学校の勉強も受験勉強と並行して行う必要があります。大変でしたが、学校の定期テスト等も怠らずにコツコツ結果を積み重ねて、一般入試に備えた勉強をしっかりと行っていたことが、推薦入試時の自信にもつながったと感じています。

最後になりますが、私が一番大事にしている事は、合格がゴールではないということです。仮に第一志望校に合格したとしても、卒業後が明るいとは限らないと思います。何よりも入学してから頑張りが将来には直結すると思っています。そのため、入学後も頑張っていける力をつけるためにも、勉強習慣の癖づけなど受験期の過ごし方はとても大切だと思います。高校生活を送る中で、色々な苦悩を抱えることもあると思いますが、時には気持ちを切り切って、後悔のないように最後まで頑張ってください。応援しています。

2025年度卒業生(17期生)

東京家政大学 栄養学部管理栄養学科
総合型推薦合格

「合格体験記」

私が第1志望の大学を決めたのは3年生の7月頃でした。1年生の夏休み頃からいくつかの大学のオープンキャンパスに行き、各大学の雰囲気や特徴、取得できる資格、授業のカリキュラム等実際に見学しないとわからないことを学んでいました。その中で自分が行きたいと思う大学を2つまで絞り、夏休み直前まで悩み決めました。入試方法は高校入学時から推薦入試で受験すると決めていたため良い内申が取れるように、提出物を期日までに出すことや定期考査に向けて勉強していました。

本格的に受験の対策を始めたのは、3年生の夏休み中です。エントリーシートを書く上で大学のアドミッションポリシー等理解しておく必要があったため、パンフレットをしっかりと読み込んで詳しく書き、伝えたいことが伝わるよう何度も書き直し添削していただきました。小論文や面接のない入試であったため特に丁寧に書きました。筆記試験の勉強も同じタイミングで始めました。文系科目と理系科目をそれぞれ選択しましたが、理系科目は苦手な模試でもかなり点数が低かったため、時間をかけて基礎から勉強しました。まずは教科書を読み分野ごとの大まかな内容を理解し、その後用語を暗記し、問題を解けるよう知識をつけていきました。部活のコンクールもある中、2ヶ月弱しか勉強できる期間がなかったため、毎日最低でも1時間は勉強するようにしていました。少しずつでも続けて勉強することが大切だと思いました。周りの受験生と比べて遅れていると自覚していたため諦めなくなる時もありましたが、最後まで後悔が残らないよう努力しました。

最後になりますが、受験で大切なことは学力を上げることだけではなく、忍耐力や仲間と支え合うことだと思います。自分を責めすぎず、頼れる時には周りの人をしっかりと頼り、声をかけ合うことを忘れず、受験に挑んでほしいと思います。応援しています。

神田外語大学 外国語学部英語学科
公募学校推薦合格

「自分の言葉がくれた自信」

私が第一志望の大学を決めたのは、高校2年生の夏頃です。もともと英語が好きで、将来は英語に関わる仕事に就きたいと考えていました。オープンキャンパスに参加したり、大学の情報を調べたりする中で、自分の学びたいことが学べる環境だと感じ、この進路を目指すようになりました。

試験対策を本格的に始めたのは、高校3年生の7月です。特に面接対策に力を入れ、先生と繰り返し練習を行いました。志望理由や高校生活についての質問を中心に準備を進めましたが、答えを暗記するのではなく、自分の考えを理解した上で話すことを意識しました。最初は質問に対して答えるだけで精一杯で、自分の考えをうまく言葉にできず不安を感じることも多くありました。ですが、練習を重ねる中で少しずつ落ち着いて話せるようになりました。

実際の試験では事前に考えていた質問だけではなく、1つの質問から話が広がり、さらに深く聞かれる場面が多くありました。自分では答えられたと思っていても、そこから関連した質問が続く、準備の難しさを実感しました。振り返ってみると、質問と答えを1つずつ用意するだけでなく、その先まで考えた想定問題をもっと多く準備しておけば良かったと思います。

受験期間は緊張や不安もありましたが、本番では落ち着いて自分の言葉で伝えることを心がけました。今回の受験を通して私は、自分の考えと向き合い整理し、相手に伝える難しさと大切さを学びました。完璧な答えを用意することよりも、自分の考えを信じて話す姿勢が結果に繋がったのだと思います。これから受験に挑む人も、不安を感じることがあっても自分を信じて最後まで諦めずに取り組んでほしいです。頑張ってください、応援しています。

「私の3年間」

私が進路を本格的に決めたのは、高校3年生の夏頃でした。決め手となったのは、これまで3年間コツコツ積み重ねてきた評定平均（1年3.7、2年3.5、3年5.0最終評定平均4.0）と、2年生の夏に参加したオープンキャンパスです。オープンキャンパスでは、先生方の授業への向き合い方や、学生が真剣に学んでいる雰囲気が強く印象に残りこの大学を志望しました。

進路については、両親と何度も話し合いました。将来は高校の生物の教師になりたいという目標があったため、その大学で教職課程を履修できるか、学費はどのくらいかかるのか、自宅から無理なく通える距離なのかといった点を、自分で調べた上で相談しました。進路は親に決めてもらうものではなく、自分で調べ、自分の言葉で説明することが大切だと感じました。

試験対策は、推薦入試が不合格だった場合に備えて、一般入試対策も並行して進めました。英語は文法と単語を中心に基礎を固め、長文読解にも少しずつ慣れるようにしました。数学は多くの問題を解き、分からない問題はそのままにせず、積極的に質問しました。生物は基礎内容を早めに終わらせ、学校のワークを活用して理解を深めました。

進路活動の中で一番大変だったことは、朝早くから学校に行き、勉強を続けることでした。しかしその中で、「今、自分が勉強できている環境は当たり前ではない」と考えるようにし、調子に乗らず、やるべきことを淡々と続ける意識を持ちました。

振り返ってみて、もっと早くから取り組んでおけばよかったと感じるのは、英単語や長文への慣れ、そして数学で公式をどのように使うかを考える力を鍛えることです。授業を復習の場として活用できるよう、予習をして臨むことの大切さも実感しました。

最後に後輩のみなさんへ。推薦入試を考えている人も、一般入試の勉強は必ず続けてください。一般入試の勉強をしていないと推薦は受けられません。毎日の小さな積み重ねが、進路の選択肢を広げ、将来の自分を助けてくれます。焦らず、自分の目標に向かって一歩ずつ進んでいってください。

「誇れるものを持とう」

私が就職活動に取り組み始めたのは、3年の7月の下旬からでした。就職するのを決めたのはこの1か月前からで、その決定打となったのは私が就職先の製品を使っていた事と、給料面が良かったことです。そのため、決めた日からその会社を元にして、企業の良いところ、自分のどのようなところがあっているのかを照らし合わせ、文章を作り、先生と面接練習を行いました。また、先生にアドバイスをしていただき、それを元に進路部の先生と意見を出し合い、内容を深めていきました。就職はその会社にどんだけの熱量があるのか、それをどのように伝えることができるのか、重要になってきます。そのため、自分の強みを入社してからどう活かせるのか、社会人になった時の理想像を自分の中で立てておいた方が、面接の時に困らないと思います。ですが、これからを踏まえても、面接の時に後悔したことがあります。それは、私にはこれといって学校生活で力を入れて取り組んだことが思いつかなかったのも、皆様には学校生活で、勉強や部活、委員会や行事の中で1つ自分が頑張ったと言えるものを作っておいてほしいです。私はこの質問を面接でされたときに、皆さんには後悔をしてほしくありません。面接では様々な角度からの質問がされるので、広い視野を持った回答を事前に用意して面接を受けられるようにしてください。

私もギリギリまで悩んで、最終的に就職の道を選びました。でも、ギリギリまで悩むのもいいと思うのですが、早く決める分だけ、準備の時間が作れます。学校には高卒の方に向けた様々な求人が来ます。もし、今就職を視野に入れて悩んでいるのなら、1度求人を見ることをオススメします。皆さんの進路活動を心から応援しています。

(株) バス東京

「合格体験記」

私が京成バスの運転手になろうと決めたのは高校3年生の6月頃で、そこから試験対策を始めました。

就職試験の中に面接試験があったため、負けない面接を夏休み中に二回行いました。

その他にもハローワークの方に面接の練習をしてもらい、面接時の言葉遣いを直していただけるよう対策をしました。

そして10月1日に就職試験を行い、適性検査30分、面接30分の計60分の試験でした。適性検査は時間内にどのくらい図形を書き、計算が出来るかを計る検査でした。

面接は面接官2人でしたが、本番という事もあり緊張しており、自分が練習した通りの文章では答えられませんでした。自信を持って話す事が出来ました。

その結果、2週間後無事京成バス東京株式会社の就職試験に合格する事が出来ました。

今回の就職試験を通して私は、面接練習をもう少し回数を重ねておけば、自分が答えたかった文章で答える事が出来たと思ったので、学校だけでなく、家族とも練習しておけば良かったと思いました。

また今回の就職試験で一番大変だった事はそもそも京成バス東京の高卒求人枠がなく応募が出来なかった事です。その件に関しては、直接電話で問い合わせ、バスの運転手になりたいという熱意を伝えた結果、熱意を感じてくれたようで求人枠を作ってくれ、何とか乗り越える事が出来ました。

京成バス東京株式会社には事務職員として入社しますが、将来の夢は、バスの運転手になる事です。京成バス東京の運転手は、自宅近くの場所で勤務でき、自分に合った環境なので、このような環境で、お客さんへの思いやりがある運転手を目指せるよう、これから頑張っていきたいです。

そしてこれから進路に向かう1、2年生のみなさんは、この先の進路活動で不安な事があると思いますが、諦めず各々行きたい進路先に行けるよう勉強頑張って下さい。

応援しています。

拓殖大学 商学部経営学科

総合型推薦合格

「合格体験記」

大学に進路を決めたのは、2年生の夏頃でした。私は、専門学校か大学進学かで迷っていました。ですが、将来的に自分の選択できる職業の幅が広い大学を自分の進路に決めました。「悩む」ということは、大事です。自分の進路がどうしていいのかわからなくなり、「これでいいや」と投げやりになる気持ちもわかります。それでも、悩み続けて自分の納得できる進路決定をすることが大切です。

受験対策を始めたのは、2年生の3学期頃からです。まず私は、自分の苦手教科である英語を中心に対策を進めていました。具体的には、毎日英単語を覚えることや塾に通い英文法や長文の解き方などを学んでいました。3年の夏頃には、受験先の大学の過去問を解いていました。勉強の仕方としては、自分が「継続」でしやすいものを見つけることが大事です。私は、英単語を覚える際、スマホのアプリを使っていました。継続することは、とても大変で苦手な人も多いと思います。そういう人は、なんでもいいので継続するということを経験することが大事なのではないかと私は考えました。いきなり勉強などを継続するのはハードルが高いと思います。なので、まずは簡単なものでも継続し、それによって得られるものを実感することで、継続力の大切さを理解することから始めるといいかもしれません。

私は受験当日、試験会場に行く途中とても緊張してしまっていました。ですが、付き添っていた父が緊張をほぐす呼吸の仕方を教えてくれて、緊張を減らすことができました。受験とは、自分自身との戦いです。しかし、周りに助けてくれる大人が必ずいます。辛くなった時は、その人たちに助けを求めてください、頼りになるはずですよ。

最後に、受験勉強は他の誰でもない自分自身のためのものです。”自分”が後悔しない為に頑張ってください。応援しています。

日本栄養大学 栄養学部実践栄養学科
指定校推薦合格

「合格体験記」

私が受験期間中に経験したことや感じたことについて伝えていきたいと思います。

私が第一志望の大学を決めたのは、2年生の秋頃です。決め手となったのは、国家試験の合格者数が13年連続で全国1位であることや、分野ごとに講義と実習がまとめられたカリキュラムによって、自分の進みたい分野の専門性を高められると感じたことです。

受験対策は3年生の春頃から本格的に始めました。一般受験に向けては、ワークや過去問を中心に取り組みました。夏頃には総合型選抜に向けて面接練習や学習に励み、夏休み中も毎日学校に通いました。大変さを実感することもありましたが、継続することの大切さを実感しました。そして、秋頃には指定校推薦の枠を得ることができました。大学から出された志望学科の専攻理解レポートや志望理由書は、先生方に添削して頂きながら、どちらも6回ほど書き直しました。その中で、問いに対して答えるよりも自分の言いたいことが先行してしまい、求められている内容に対して具体的に答えることの難しさを実感しました。この経験から、相手の意図を正しく理解し、それに応じて自分の考えを伝えることの重要性を学びました。指定校推薦は比較的合格に近いといわれる受験方法ではありますが、結果が出るまでに1か月ほどかかるため、万が一に備えて、一般受験の対策も続けていました。

私が前年に見た指定校推薦の枠は1つだけでしたが、入学する年から共学化により2枠となった偶然も重なり、その結果、第一志望の大学に入学することができました。一つの考え方ではありますが、「努力+運」の要素もあるのではないかと感じるときもありました。これから受験に臨む皆さんには、自分には少し難しいと感じる場合でも、選択肢を狭めず、努力を続けて挑戦し続けてほしいと思います。応援しています！

都立板橋看護専門学校
一般受験合格

「合格体験記」

私が第1志望校を決めたのは、3年次の1学期頃です。看護学科のある専門学校のオープンキャンパスに参加していく中で、学校の施設や設備が整っており、特に模擬病棟があるという点に魅力を感じました。また、公立ということで、他の大学や専門学校と比較すると、学費が大幅に抑えられるため、両親への負担が少しでも減らせることに加え、自宅から通いやすい環境であることから、都立の看護専門学校に決めました。

志望校を決めてからは、受験科目である国語と数学の基礎を固めることから始めました。国語は問題集を4冊購入し、繰り返し解き続け定着させました。数学は黄色のチャート式参考書を夏休みの間で全て解けるようにする予定でしたが、勉強に集中できず、基礎作りが終わったのは11月頃でした。私は普段から家庭学習する人ではなかったので、1日の勉強時間を増やすことや、継続して勉強することに苦労しました。毎日少しずつ勉強時間を増やし、1日1時間は必ず勉強するようにした結果、最終的に1日7時間ほど毎日勉強できるようになりました。受験2ヶ月前から過去問を解き始め、1ヶ月ほどで5年分の過去問を解きました。受験を終えて、普段から少しずつでも家庭学習をしておけばよかったと感じました。また、学科は良い結果を残すことができましたが、面接がうまくいかなかったのもっと早くから練習し、回数を重ねておけばよかったと思いました。後悔したことの中でも特に学校生活が思い当たります。本当は推薦入試で挑むつもりでしたが、成績が足りず、一般入試で挑むことになったのですが、結果的に一般入試で挑んでよかったと感じています。

最後に、私が伝えたいことは、私のように後悔のないよう、計画性・余裕を十分にもって受験に挑んでほしいです。また、後悔したとしても諦めず挑戦して下さい。頑張ってください。応援しています。

東京教育専門学校
幼稚園教諭・保育士養成科
指定校推薦合格

「自分のいきたい進路に向かって」

私が第一志望校を決めたのは3年生の1学期です。進学先を調べ始めたのは1年生の3学期からでした。2年生のときに3校のオープンキャンパスに参加して、東京教育専門学校を第一志望校に決めました。決め手となったのは、幼稚園が併設されていて、より実践的な学びが得られることと、一定期間東京都の保育所で勤務することで奨学金返済免除制度が利用できることです。短期大学と迷っていましたが、考えていたところが閉校になってしまったので早めに専門学校に切り替えることができました。

試験対策を本格的に始めたのは試験日の1か月前です。一般も推薦も面接のみだったので先生方をお願いをしてひたすら面接練習に励みました。試験の前日には両親にも面接練習をお願いをして、計5回回は練習をしました。また、指定校推薦を第一に考えていたので評定平均をあげるために定期考査にも力を入れていました。良い成績を維持するのは大変でしたが、友人と競い高め合いながら勉強をすることができたので頑張り続けられました。

試験は、集団面接と個人面接がありました。集団面接では試験官、受験者それぞれ3名ずつで1人約5分間の計15分間あり、志望理由やオープンキャンパスの感想を話したり、1分間の自己PRをしました。個人面接では、試験官と1対1で世間話をしたり、フランクな感じの会話を約5分間交わしました。とても緊張していましたが、受験者3人で待機をしているときに他の受験者の子が話しかけてくれたので少し緊張がほぐれました。それでも、本番では言葉が詰まってしまい、普段通りにはできませんでした。無事に合格はしましたが、もっと面接練習をしていれば緊張しすぎずに面接に挑めただろうなと思いました。

最後に、受験期間は心身ともに疲れてしまうことが多々あると思いますが、たまには息抜きに自分の好きなことをしながら忍耐強く自分のいきたい進路に向かって頑張ってください。応援しています。

東京都立荏原看護専門学校
看護学科
指定校推薦合格

「後悔を残さないために」

私が第一志望校を決めたのは、2年生の夏頃でした。決め手となったのは、大学に進学するのと比べて学費がとても安いことや、校内に本格的な実習設備があること、そしてオープンキャンパスに参加したとき、質問に優しく答えてくれた先輩やサポートしてくれる先生方の雰囲気がとても良く感じたことでした。

一般入試対策は2年生の終わり頃には始めていました。私は数学が特に苦手なため、克服できるように色々な参考書を見て自分のレベルに合った参考書を見つけました。そしてその本を数学の先生に見せて、効率的に勉強を進められる勉強方法を教えてもらいました。また3年生の7月からは面接練習、8月からは小論文対策を始めました。面接は事前に学校から配布された面接対策の質問以外にも、看護系でよくされる質問をインターネットでできるだけ多く調べて本番でどんな質問がされても困らず答えられるようにしました。そのため本番で予想外の質問をされても落ち着いて答えることができました。しかし小論文は、過去問が1年分しかなかったためどんなテーマで出題されるか不安だったことや、練習と違って他の受験生が書き終わっている雰囲気を感じて焦ったことで、練習の成果を思うように発揮できませんでした。受験が終わった後は、1人だけの環境でなく、他の人もいる状況でも小論文を書く練習をすればよかったと思いました。今まで頑張ってきたことに変わりはないと考えを切り替え、勉強を続けていきました。

私は最初に都立看護に行きたいと思ったとき、偏差値や倍率が高い学校であるため、受験するか悩みました。その後も先に合格していく友人を見て焦りを感じ親に当たってしまうこともありましたが、でも合格した時、たくさん悩んだからこそ志望校に合格できたんだと思いました。みなさんも自分と向き合って進路実現できるように頑張ってください。

「後悔しないように」

私が第1志望の大学を決めたのは、三年生の夏休みの終わり頃でした。周りの友人は早くに志望校を決め、進路活動に励んでいる中で、私は大学を調べることに必死でした。しかし、調べていくうちに既にオープンキャンパスが終わっている大学も多く、もっと早く行動していればと後悔しました。悩みに悩んでようやく決まったその頃には総合型選抜のエントリーが迫っており、受験を断念せざるを得ませんでした。断念すると決めてから公募推薦という入試方法を知り、幸いにも条件を満たしていたため推薦での受験を決めました。

入試まで約1ヶ月という短い期間、放課後は毎日2時間以上デッサンに取り組みました。基礎は身についていたものの、本格的な受験対策は簡単ではなく、何度も「もっと早く始めていれば」と感じました。それでも自分を信じて努力しつづけました。

デッサン対策に時間を割いたことで面接練習に不安を残したまま迎えた試験当日でしたが、先生からのアドバイスとこれまでの努力を信じて臨み、無事にやりきることができました。そして合格をいただくことができました。今回の合格は、これまでの積み重ねと、推薦をいただける学校生活を送っていたことが大きかったと感じています。これまで当たり前のように続けていた遅刻や欠席をしない生活が、受験の場面で自分を支えてくれました。

最後になりますが、この経験から私は、余裕を持って準備を始めることの大切さ、そして日頃の学校生活を大切にすることが自分の将来の選択肢を広げることにつながると強く実感しました。当時は後悔ばかりでしたが、自分が本当に進みたい大学を見つけて決めることができたので沢山悩んで自分と向き合う時間も大切だったと感じています。私の体験を活かして充実した高校生活を送ってください。これから待ち受けているどんな事も、理想の明るい未来を思い描いて乗り越えていってほしいです。応援しています。